

第2回九州地区国立大学間合宿共同授業報告書

<https://doi.org/10.15017/21133>

出版情報：九州地区大学一般教育研究協議会議事録. 2, 1977-10-31. 九州大学教養部
バージョン：
権利関係：

あ と が き

▶第2回合宿共同授業が行なわれたのは7月半ばであったから、この報告書が出るまでにはほぼ3ヵ月の月日が流れたわけである。実はこのごろになってやっと、これを編集する気になれたのだ。そのかん、幹事大学とでもいうべき九大は、まことに多事なる日々の連続であった。しかし、何よりもあの九重での「全力投球」の疲労が、こうした遅延の原因の一つであったことは否めない。

▶三月の島原に次いで、第2回目の九重でも参加者たちの熱気はすごかった。そうした高揚は、参加者全員の激しい出会いがもたらしたものだ。第1回共同授業の報告書のこの欄で、第2回目は共同授業にとって重要な転機になろうと書いた。つまり、幹事大学のローテーションはどうするか、教養部をもつ国立六大学だけに限るかどうか、年一回かそれとも2回か、九州地区を一括して続けるのか、それとも二・三のブロックに分けるのかなど、とにかく未決の問題が少なくなかったからだ。そして、今の時点でも、その事情にきしたる変化はないようだ。しかし、あれほど疲れはするものの、「やっぱりまたやるか」といった気持ちになるのだから不思議である。とにかく、ここにいけば、教職員たちは学生を、また学生たちは教職員を、それぞれ再発見できるのだから。参加学生の感想にも、「できれば次回も参加したいのだが……」というのが珍らしくなかった。味気ないキャンパスライフで昂じた欲求不満の、単なる捌(は)け口以上のものを、それが与えてくれるからだろう。第3回目も、誰かがきっとやってくれるに違いない。

▶この報告書の編集には、九大教養部教務掛の皆さんが協力して下さった。また多忙なスケジュールのなかで原稿をお寄せ下さった教官各位に対して、心から感謝を申し上げたい。最後に、参加学生諸君のいっそうの研鑽を祈りつつ。 (あんど)

発行年月日 昭和52年10月31日

発行者 九州大学教養部

810 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 771-4161